

春待つところ

齊藤倫子 青森

ジャスマインの花の香りのクリームでコーティングせん冬の手足を  
ひとりごと「おお」とか「ああ」とかこぼしつつ崩るる雪の道を歩めり  
荒海の舟のごとしも積雪にバスの車内はぐらりと傾ぎ  
堅雪をふみつつふいに桜餅食みたしこれは春待つところ  
シマエナガ留まつてゐれば癒されん雪まみれなる桜樹を見上ぐ

すずめいろどき

中津川 靉 埼玉

「酒は不可」、赤提灯が目に入れど堪へて帰るすずめいろどき  
縁にさへ今朝は躓く晩年の父の粗忽を笑ひしわれが  
井目をならべて風鈴下げたのに勝てなかつたな父との置き碁  
母の字の書き込み遺る二百冊の謡本あり謡へうたへと  
女院のごとくにわれらを恋ひをらん「大原御幸」を妣は謡ひて

箒目

尾崎潤子 千葉

水六つ書きて淼淼 汎濫のかの日の水がよみがへるなり  
その果てのブラックホールおもふとき空の穴かんむりをうべなふ  
アンカーは茉優 一人抜き一等でゴールの動画いくたびも見る  
「ぼろぼろな」のつぎの言葉は「駝鳥」だと瞬時におもふそののち悲し  
あさかげの八幡さまの土のうへ呼吸ただしき箒目のこる

不老長生

松尾 佳津子 東京

電話にて「ハッピーバースデイ佳津予さん」歌ひくれし友の声を蔵へり  
九十六祝ひて孫にもらひたる不老長生の（もろこし）を食む  
水清き福井の里の水羊羹するりいたたく晦日の夕べ  
新しき年来れば思ふふるさとの鮭と腹子の入りたる雑煮  
婿の焼く鯛の塩焼き食べながら広々とした海を思へり

手アイロン

沢 麗子 富山

草原に寝転ぶやうに真昼間のプールにゆつたり体浮かべる  
取り込みてたたまむとするブラウスに手アイロンする義母がせしごと  
虹のごと新湊大橋架かりをりホームの義母に会ひにゆく午後  
庭師らの仕事終はりて雪吊りの松のむかうは鈍色の空  
生きてゐるからはえてくるわが顔の産毛やさしく刃もて剃りゆく

われのまほろば

中川 暁子 富山

夜の更けを雪降り続き眠りゐる町も田畑もわれのまほろば  
じんじんと指の疼けり湯に浸けし手が雪かきの寒さにほどけ  
とうろりと陽の差し来たり庭木々の影新雪の上に生れしめ  
新聞の配達員の足音が雪のあんばい伝へて響く  
玄関に三家族の靴乱れなく並び大人の正月穏し

りんごの樹

齊藤 淳子 長野

初泳ぎは町民プール アルプスの銀嶺映える窓に囲まれ  
賀状代22円増し返信のなきいくたりをおもふ初春  
チェーンソー空に響きてわが家を支へしりんごの樹が伐られゆく  
人に糧をくれし樹なれど人老いて樹を守れねば樹は伐られたり  
新年の決意をつよくしたと言ふ凶のおみくじ引いた少年

虹の温度

吉田 美奈子 愛知

カレンダーの規則正しき数列をただに見てをり告知受けつつ  
切除箇所マーキングされわが乳房ピエロの顔のやうなかなしさ  
ヨシダサンオワリマシタヨ 麻酔よりぐいとこの世に呼び戻されぬ  
オベ濟みて残る乳房のふくらみを手に包みたり 嗚呼あたたかし  
冬の野にかかりゐる虹の温度など茫と思へり術後四日目

ハッピーセット

康 哲 虎\* 兵庫

窓の外の猫がこちらを覗いてる午前三時の閉鎖病棟  
大声を出す人がまた増えている午前三時の認知症病棟  
意味のある言葉も意味のわからない言葉もひろう看護の仕事  
海鮮丼短歌ウクレレ韓国語英語筋トレハッピーセット  
寂しくて人恋しくて日本語をつなぎあわせて短歌を作る

スピーチロック

柳井政則\*兵庫

目と頭隠れるほどに深々と学帽被りし中一の春  
コジャックの Panama ハットが似合う男通勤電車の中には居ない  
まつさんは正ちゃん帽を整えるグループホームの小散歩の朝  
否定形、命令形が飛び交えるグループホームの日常会話  
「立たないで」「静かにして」と言っていたへ言葉の拘束スピーチロックになると知らずに

精を出す

平尾潤子\*鳥取

公園の広場に驟雨降りはじめ駆けだす児らをスタジイが呼ぶ  
残んの葉すべて奪われ公園のなんじゃもんじゃはまた名を失くす  
二十余年まっすぐ詠んできた歌は希望の權休オシまず漕がな  
大鍋の見事な煮凝りびいらりと皿に移して義父のよき貌  
雪起こし鳴るたび厚着の背伸せなばし年の用意にみな精を出す

とまり木

木戸博恵 広島

年の瀬に来て元日は帰りゆく娘一家のとまり木わが家  
ねこ好きの孫ら去りゆきぼんやりと箱根駅伝見てをり猫は  
冬の陽はあたたかだらうな夏の陽は痛いだらうな南の窓よ  
「二十四の瞳」の録画くりかへし見て泣くひとと長く暮らせり  
一月の空やはらかに晴れわたり神坐す島の気をふかく吸ふ